

Karibu Kenya!

☆JICA 海外協力隊　ケニア通信 No.9☆　2026年11月10日　発行者:夏目佳代子

Mambo?（マンボ？） お元気ですか？　９月半ばから咲いていたジャカランダの花は見ごろが過ぎ、そろそろ終わりを迎えそうです。日本は寒くなってくる頃かと思いますが、こちらは１０月下旬、気温が上がって暑くなりました。本来なら小雨季に入る時期らしいですが、雨もほとんど降りません。更生学校のスタッフも、こんなに暑いのは例年にないと言っていました。どうやらエルニーニョ現象の影響のようです。１１月という感じがしません。



☆ジャカランダもそろそろ終わり

☆授業は試行錯誤です

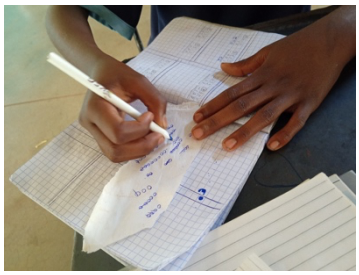
週に２回、６年生を担当することになった授業。朝の集会を終えて９時から授業スタートのはずですが・・時間通りにはいきません。その前に、更生学校には時計がありません！９時に朝の集会が終わっていないこともあれば、集会後に歯磨きをしている子もいます。授業時間も一応決まっていますが、チャイムがなるわけでもありません。教室にみんながそろったら１時間目はもう終わっていることも。最初は英語の教科書を進めようと思いましたが、なかなか集中も続きません。英語がほとんど分からない子もいます。教科書に発音の練習として載っている早口言葉を３回連続で言うタイムトライアルや、サイモンセッズなどのゲームをやってみました。前に出て話すのは好きな子が多く、教科書に載っている絵を見てストーリーを作るのはみんなやりたがりました。英語が分からない子もスワヒリ語で話し、別の子が隣で英語にしてくれました。コントみたいです。

＜時間割＞
9:00-9:35
9:35-10:10
10:10-10:30 休み時間
10:30-11:05
11:05-11:40
11:40-12:10 休み時間
12:10-12:45



算数はどれくらいできるかなと思い、まず１００マス計算で九九をやってみました。あちこちから「１、２、３、４・・」とつぶやく声が聞こえてきます。かけ算が分からない子もいれば、九九の概念は分かっても、パッと答えが出てこない子もいて、指を折りながら数えたり、ノートに〇や棒を書いて数えたりしています。基本的な計算練習から始めることにしました。ドリルなどはないので、それぞれのノートに足し算や引き算のひっ算、九九を書いて渡し、できたら丸つけ。ですが、ケニアでは合っていたら〇ではなく、日本では間違えた答につける✔を書くのです。間違えそうになります。最後に花まるを書いたらみんな大喜びでした。





☆１、２、３、４、５、６、７、８・・

☆副大統領がやってくる！？

ある日、英語の授業の途中で、施設長のジェニファーさんと、ペシュさんが教室に入ってきました。「ごめんなさい、これから大掃除をします。」えーーっ！理由を聞くと、明日副大統領が訪問に来るとのこと。それを先ほど知らされたのだそうです。今回に限らず、訪問客がある時は、授業が中断されて大掃除が始まります。みんなバケツをもって集合！コンクリートの部分も、洗剤でゴシゴシと洗います。

その後、トラックやショベルカーがやってきて、隣の敷地の木々を切り始めました。近所の人たちも見学に来ています。聞いてみると、小学校が建設されるとのこと。そのために、更地にして更生学校との間にフェンスを建てるのだそうです。そして、小学校建設予定地で、副大統領が演説するのです！



☆洗剤でゴシゴシ

翌朝行くと、スタッフはみんな正装していました。私はいつも通りＴシャツだけど大丈夫かな・・授業はなし、副大統領が来るのを待ちます。隣の敷地にも、朝から大勢の人が集まってきました。お昼近くになって演説が始まり、スタッフと見に行きました。遠くからしか見えませんでしたが、本当に多くの人が集まっています。そして演説が終わり、更生学校に来るかと思ったら・・・副大統領はそのまま帰ってしまいました！　みんな正装して待っていたのに、拍子抜けです。

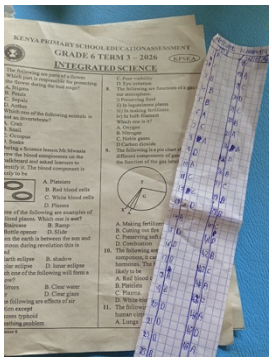
ケニアの暮らしはポレポレ（ゆっくり）ですが、急に何かが始まることも多々あり、日々思ってもみないことがあれこれ起きます。



☆演説を聞きに集まった人々

☆テストはハプニングだらけ

ケニアの学校は１０月半ばで学年が終わり、１月から新年度が始まります。小学校で活動している隊員から学年末テストがあると聞いたけど、更生学校ではテストはないのだな、と思っていたら、なんとテストを行うとのことです。知ったのはテストの３日前。そして当日の朝、ある子が「今日はテストを受けるんだよ。」と話しかけてきました。「何の教科を受けるの？」と聞くと、「知らない！」と返ってきました！　そして教育部門の部屋に行くと、６年生のテストを渡され、テスト監督をしてほしいとのこと。突然すぎます。そして、校長先生は、ノートを短冊に切り始めました。テストは４択の選択問題なので、短冊に解答を書いていくそうです。教室で生徒の数を数えた後、問題用紙を数えたら・・足りません！　テストは、先生が作るのではなく、認定されたものを購入するそうですが、数日前に計５人が新たに更生学校に送られてきたので、当初注文した数を超えてしまったのです。コピーしたらどうかと言ったら、コピー機はないとのこと。どうするのか・・と思っていたら、「問題用紙は２人で共有する。」と。えーーっ！　でも致し方ありません。２人の机を合わせて真ん中に問題用紙を置きました。みんなが席に座るまでに時間がかかり、始めようと思ったら、ペンがない子が何人かいて、始まる前からてんやわんやです。テスト中はもちろんしゃべってはいけないのですが、問題文を読む声が聞こえたり、隣の子と話したり、「カヨーコ！７番の問題が分からない！」「カヨーコ！これはどういう意味？」と口々に質問されたりしてなかなか大変でした。さらに、教室の入り口に立って監督をしていたら、男の人がやってきて、「鍋やフライパンを売りに来たのですが、買いませんか？」と！！　日本の学校だったら到底起こりそうにないことが、いろいろ起こります。



☆理科の問題と解答用紙

６年生は１日目に英語と算数、２日目はスワヒリ語と理科・農業、３日目は社会・宗教・芸術（体育・音楽・美術）が一緒になったテストでした。このテストが始まって少しして、呼ばれました。「しゃべっちゃだめだよ。」と言いながらも、見ると印刷不良で問題が読めません・・手書きで書き直しました。また呼ばれて行ってみると、２０番の次が３３番。全員分、途中の１枚が抜けていました・・

テストは１教科１００分。３５分の授業もなかなか集中が続かないので、子どもたちにとってはとても長かったと思います。私も監督している時間がとても長く感じました。採点もしましたが、十分に学習してからテストを受けている訳ではないので、もちろん点数はとれません。ケニアでは、小学校１年生からスワヒリ語の授業以外は英語で行われます。テストの問題も、スワヒリ語の教科以外はすべて英語で書かれています。英語の読み書きが十分でない子たちにとって、書いてあることが理解できないものに向かうのは苦痛だったろうと思います。ハプニング続きのテストでしたが、子どもたちの学力を知る機会になりました。１月の新学期から、どうやって授業をしていくか考え、校長先生とも相談しながら行っていきたいと思います。

そして、テストが終わって２日後の午後、裁縫クラスを始めようと思ったら、食堂に集合がかかりました。何かと思えば、これから終業式を行うとのこと。午後裁縫クラスをしてもよいか確認して、「OK！」と言っていたのに？！！
そして式の中で、大学生の子と私は突然スピーチをふられました。私以外、誰も動じていないのがすごいです！　　それではまた！　Tutaonana!



☆食堂に集合